令和２年７月豪雨からの復興

～八代市坂本町から～

道野　真人

道の駅坂本・さかもと館は1995年に球磨川沿いの埋め立て地で開業しました。2020年の豪雨災害時は開業25周年の記念の年でした。坂本町は水害の多い地域ですが、これほどの浸水高と水量、球磨川本流の橋梁4本が崩落し、道路、鉄道、各種インフラが長期間寸断された豪雨災害は**住民の誰も経験したことがありません**でした。

←2020年
←7月4日午前6時頃の
←道の駅坂本さかもと館
←の被災状況

国道219号線から約6m
館内の床面から
約3m50cm　浸水

対岸の工場や施設、道路
は崩壊崩落し通行不能

＊その後15時頃まで
約10時間この浸水
状況は続きました

被災前のさかもと館

被災後のさかもと館

坂本町は以下の理由により復旧作業の開始も進捗も大幅に遅れました

- 多くの道路や橋が被災して町内に入ることができなかった
- 行政、消防、警察、医療、商業、等のほぼ全てが球磨川沿いにあり全壊した
- 新型コロナウイルス感染防止のため、県外からのボランティアが原則活動禁止
- 被災後約１０日間の長雨、停電、断水、通信障害等が続いた

＊私自身、自宅や2台の自家用車等が全壊、自衛隊車両で高速道経由で避難。約1か月間親族宅で生活後、家族3人で現在もみなし仮設住宅で生活しております。（2021年10月現在）

・広大な敷地を有する道の駅坂本の復旧活動には、被災民家優先、新型コロナウイルス感染リスクの観点から、個人の繋がりでSNSで呼びかけ、延べ2000人のボランティアに参加していただき、ニーズに応じて町内各地に派遣も行いました。
～冬前まで長く続いた停電断水状態、悪路迂回路の状況下で多くの方々が多様な支援と”さわやかな風”を被災地である坂本町に届けてくださいました～
被災地、被災者はその度に前向きになることができました。

坂本町内の生産者支援の観点から、

・2020年9月、坂本町の温泉施設クレオン内のスペースでさかもと館営業再開。
・坂本町内に通じる国道219号線の一般車両通行止め、被災した町民が長期避難している、新型コロナウイルスによる影響等から、外販に積極的に出向き、販売による生産者支援とともに、坂本町の復旧復興について町外の人々に知っていただく機会と捉えて情報発信や情報交換、メディア対応を行いました。
・2021年5月、元の場所元の建物を仮復旧して営業再開、同年7月には同じ敷地内に「さかもと復興商店街」が開設されました。

＊坂本町の食や農の生産者の方々も多数被災しました。
（こんにゃく、農産物、鮮魚店、加工品拠点、ジビエ工房、田畑.

「＃坂本で会いましょう」を合言葉にして、被災して離れ離れになっている町民が集う企画を、コロナ禍ではありましたが、できる限り坂本町内で企画、実施しました。～炊き出し、物資配布、散髪、運動、芸能、学校の清掃、肥薩線線路の草取り、各種相談会、球磨川第一橋梁の保存活用・・・

・坂本町の主任児童委員として、また一児の父として、
子供や保護者視点の意見や情報の収集と発信にも注力し、
学校と地域を繋ぎ次世代に坂本を繋ぐ役割も担いました。
特に子供たちには、
今回の被災避難経験を前向きに捉え、将来、気象予報士や防災士等として活躍してくれたら・・・

・坂本が好きで移住した身として、このまま諦めたくない・・・

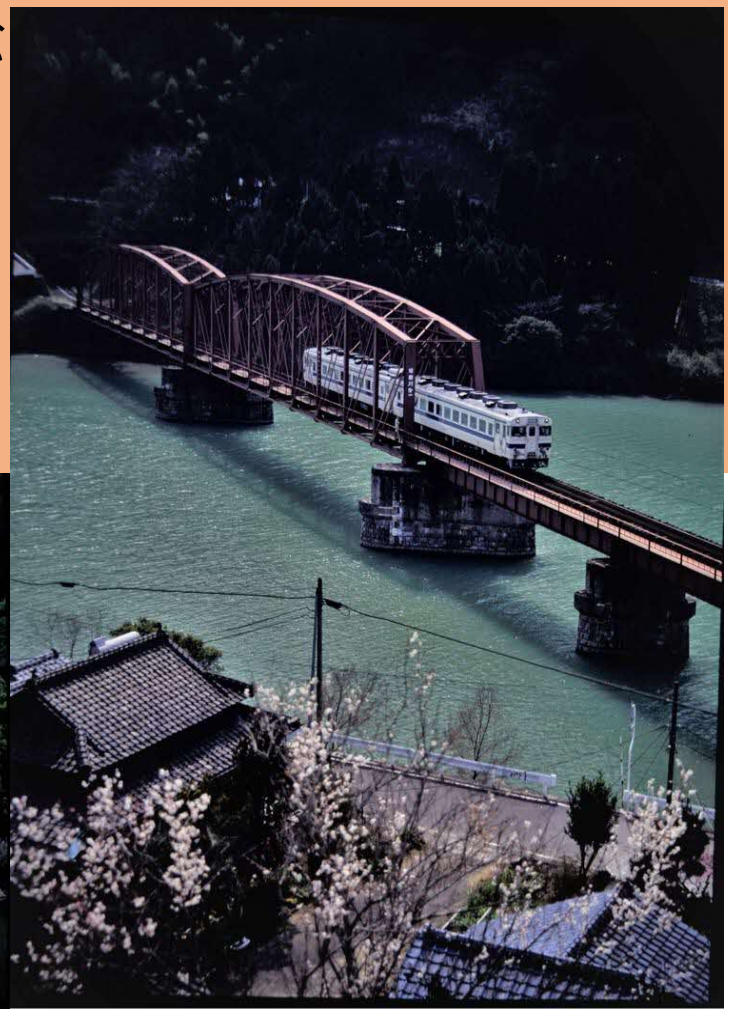
・地域のこしの視点で坂本町の再生に関わってゆきたい。

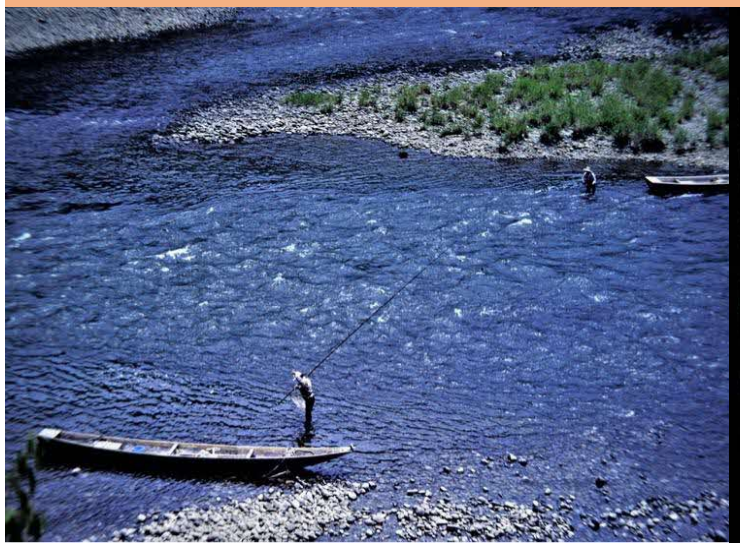
・現存する生産物、生産技術、風習、文化、、を引き継ぎ次世代へ新たに繋ぐ。
・豪雨災害をもたらした球磨川。その恵みを活かして商品化したい。
・空き家古民家再生、地域おこし協力隊制度等を活用して坂本を残したい。

・坂本町は国内で初めて”大型コンクリートダムを撤去”した地域です。
再生した球磨川と再び歩み始めようとした直後に豪雨災害に遭いました。

・災害を機にかけがえのない多くのものを失いましたが
同時に貴重な支援や出会いやご縁を得ました。

・多様なものを取り込み、山から海まで広がる清流
球磨川流域全体で連携し、坂本で暮らし、地域再生、
地域のこし、の一端を今後も前向きに担い動きます。





最後までありがとうございました

坂本で球磨川で会いましょう